

Title	大学における教育機能の評価に関する研究
Sub Title	
Author	凌竜也(Shinogi, Tatsuya) 田中滋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1993
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1993年度経営学 第1003号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-1003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

凌 竜也

主査 田中 滋

副査 嶋口 充輝

森川 英正

所属

田中 滋 研究室

大学における教育機能の評価に関する研究

戦後日本の大学は、サービスへの需要供給双方の拡大によって、教育機関としての社会的な意味付けが変化し、「大衆化」したといわれている。そうした動きの中で大学の内部に目を向けると、大学の提供するサービスをめぐって需要者（学生）と供給者（教職員）のそれぞれの意図がすれ違い、一部では不毛に近い営みさえなされている現状が存在する。「レジャーランド化」などといった大学への批判は、この点を指摘した代表例として挙げられるが、同時にこれらの中には、一方的な見方をしているといわざるを得ないものも多い。

大学が提供しているサービスは一つではない。そしてそれぞれのサービスがいくつかの側面を合わせ持っている。しかも、需要／供給のされ方は単純ではない。そこで本研究では、複雑な性質をもつ大学の教育機能について、需給のメカニズムを明確にした上で、経済学的なアプローチをもとに事例研究をまじえ、そこに起こるミスマッチの問題を構造化し、評価を試みた。

結論としては、需要側、供給側両者が互いにそれぞれの目的関数に従って行動する中で起こる、社会全体からみた非効率的資源配分の存在を指摘する。また同時に、現在の仕組みを支え、成り立たせているが、近い将来崩れるであろうと思われる緒要因を明確にする。さらにこれに関する解決策について、予測できる範囲での環境要因の変化と、非営利組織としての大学の社会的使命についての価値判断から、一つの方向性を示唆している。